

# 日田市学校施設長寿命化計画（概要版）

## 【目 的】

本計画は、「日田市公共施設等総合管理計画」に基づく学校施設の個別施設計画として策定します。施設の現状評価およびライフサイクルコスト等を総合的に勘案し、具体的な整備内容・時期・費用を定めた計画を策定することで、トータルコストの縮減と平準化を図り、厳しい財政状況下においても安全・安心な学校施設を維持するとともに、多様化する教育環境への対応に資することを目的とします。

## 【計画期間】

本計画の期間は、「日田市公共施設等総合管理計画」との整合を図り、2055年を目標年とします。計画の推進にあたっては、施設の老朽化状況等を踏まえたPDCAサイクルによる進行管理を行い、5年ごとに見直しを実施するものとし、本計画は、2026年度から2030年度までの第2期計画にあたります。

## 【対象施設】

本計画の対象施設は、学校施設として保有している小学校18校、中学校12校の計30校（うち、3校は一貫校）とし、建物は、長寿命化事業によるコスト低減効果の薄い小規模の建物を除く78棟を対象とします。

## 【学校施設の目指す姿】

学校施設の目指す姿を以下のように設定します。

1. 学習活動への適応性を確保する教育環境の整備（学習空間の充実）
2. 安全性・快適性を備えた施設環境の実現（生活空間の充実）
3. 地域と連携した活動の利用施設としての整備（地域との連携の充実）

## 【維持・更新コスト（従来型）】

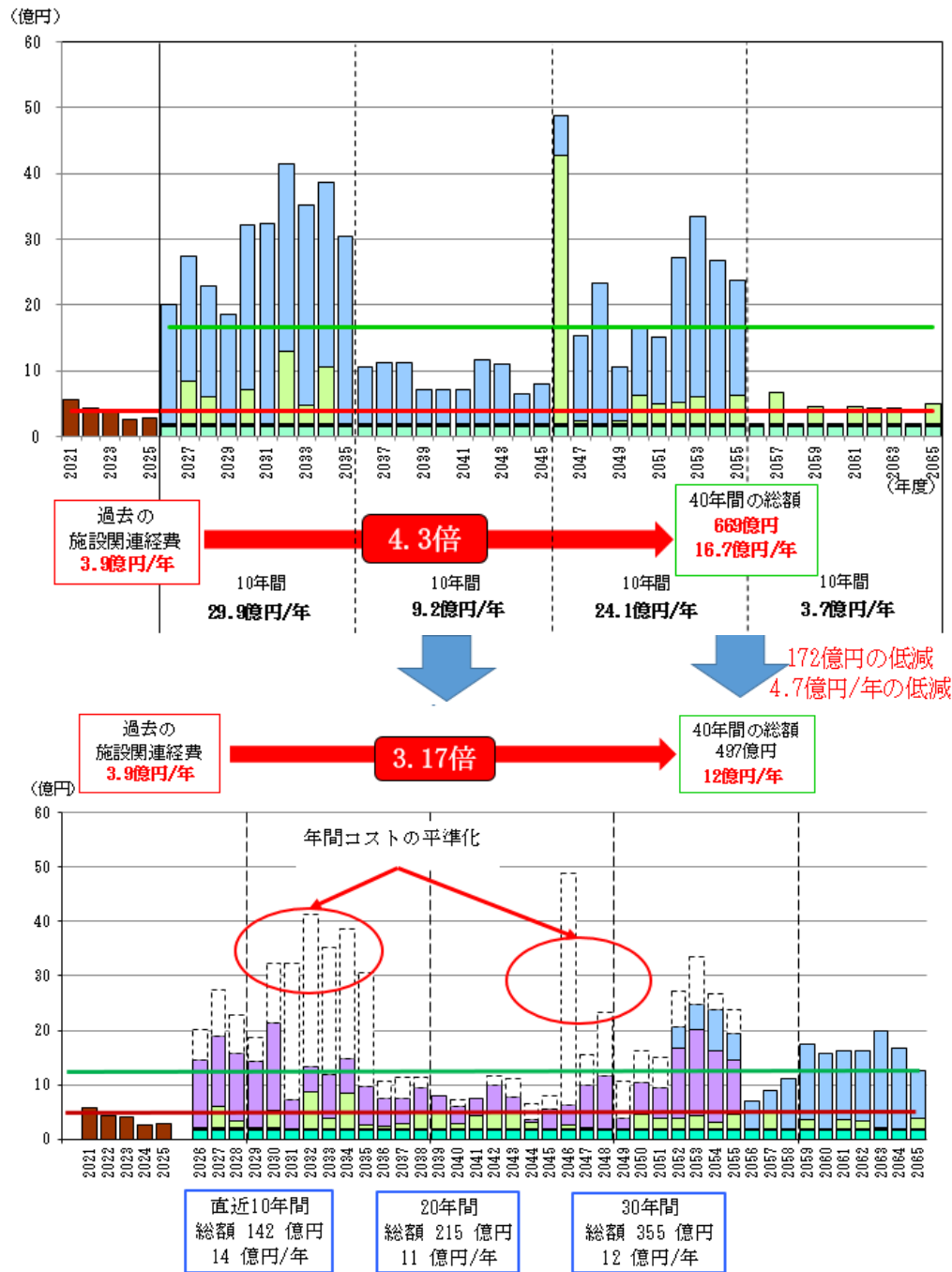
長寿命化計画対象建物78棟について、従来の建替えを前提とした維持・更新を図る場合、今後40年間の維持・更新コストは、総額で約669億円が必要となり、年平均で約16.7億円が必要になると試算され、これは、過去5年間の年平均施設関連経費の4.3倍にあたります。

特に、今後10年間の間における年平均の維持・更新コストは、改築や大規模改修により、過去の年平均施設関連経費に比べ大きな維持・更新コストが必要になると試算されています。

## 【維持・更新コスト（長寿命化型）】

本計画における長寿命化計画の対象建物78棟の維持・更新コストについて、文部科学省提供の試算ソフトにより、長寿命化を前提とし、今後40年間の維持・更新コストを試算した結果、総額で497億円、1年あたり約12億円が必要になると試算されます。

これは、従来型の改築をメインとした施設整備に比べ、総額で約172億円、1年あたり約4.7億円のコスト低減につながります。また、年度ごとのコストの平準化にも寄与します。



維持・更新コストの試算（従来型）

維持・更新コストの試算（長寿命化型）

### 【学校施設の維持・管理に関する基本方針】

＜公共施設等総合管理計画の全体方針＞

- ・ 適正な配置の検討にあたっての目標縮減率…40年間で公共施設（ハコモノ）延床面積を30%削減
- ・ 学校施設は適切な維持管理を行い、今後の人口動向を考慮しながら統合・縮小

＜学校施設長寿命化計画の基本方針＞

1. 児童・生徒の安全・安心を守る計画的保全と長寿命化の推進
2. 市民ニーズに対応した施設の有効活用
3. まちづくりと連動したマネジメントの推進
4. 施設保有量の最適化

※学校施設の適正規模・適正配置の検討状況を十分に考慮

### 【長寿命化の方針】

本市の今後の厳しい財政状況の下では、改築を中心とした老朽化対策では対応しきれない施設が大幅に増加する恐れがあります。

中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現するため、改築より工事費が安価で、廃棄物や二酸化炭素の排出量が少ない長寿命化改修への転換を図ります。

なお、改築せざるを得ない建物があった場合は、改築までの期間に応急的な保全を行うなど、当面の安全性・機能性等の確保に努めます。

### 【目標使用年数、改修周期の設定】

建物を目標使用年数まで使用し、学校施設の機能・性能を低下させず、求められている水準まで引き上げる機会を定期的に得るため、必要な改修の周期を以下のように設定します。

表：改修周期の設定

用途	目標使用年数	予防改修の周期	長寿命化改修の周期
校舎	80年	築20年・築60年	築40年
体育館	80年	築20年・築60年	築40年

築20年経過時点において、原状回復及び予防保全的な改修を行い、目標使用年数の中間期に長寿命化改修を実施し、その後、改築までの期間に再度原状回復のための改修を行うなど、定期的に必要な改修を行い、建物を長寿命化します。

### 【長寿命化改修等の優先順位】

優先順位の設定にあたっては、第1段階では劣化状況評価の健全度を基に3グループ（50点未満、50点以上75点未満、75点以上）に分け、健全度が低い順に長寿命化改修を行うことを基本とします。

第2段階では、築年数の古い順に4グループ（築40年以上、築30年以上40年未満、築20年以上30年未満、築20年未満）に区分し、劣化状況評価の健全度と築年数により改修等の優先度を設定します。

実施計画の策定にあたっては、上記の優先順位設定を基本に、過去の大規模改修履歴や耐震改修履歴、建物の長寿命化に大きく影響する「屋上・屋根」「外壁」の劣化状況評価及び児童・生徒数の推移を踏まえた適正規模・適正配置の検討状況を確認しながら進めます。

		第2段階			
		築40年以上	築30年以上 40年未満	築20年以上 30年未満	築20年未満
第1段階	50点未満	優先度1	優先度2	優先度2	優先度3
	50点以上 75点未満	優先度2	優先度3	優先度3	優先度4
	75点以上	優先度4	優先度4	優先度4	優先度5

図：優先度の設定

表：築年と劣化状況からみた優先順位の設定

		第2段階				
		経過年数				
		優先度				
		築40年以上	築30年以上40年未満	築20年以上30年未満	築20年未満	
第1段階	健全度	高	50点未満 光岡小学校 (管理教室棟) 三和小学校 (管理教室棟) 三和小学校 (普通教室棟) 石井小学校 (教室棟) 南部中学校 (管理教室棟) 優先度 1 (5棟)	優先度 2 (0棟)	優先度 2 (0棟)	優先度 3 (0棟)
		50点以上75点未満	優先度 2 (6棟)	優先度 3 (5棟)	優先度 3 (2棟)	優先度 4 (0棟)
		75点以上	優先度 4 (21棟)	優先度 4 (14棟)	優先度 4 (8棟)	優先度 5 (17棟)
建物数		(32棟)	(19棟)	(10棟)	(17棟) (78棟)	

【長寿命化計画の継続的運用方針】

・推進体制の整備

学校施設の長寿命化計画を継続的に運用していくため、教育庁が中心となり、市の関係部署間で横断的な連携を図りながら計画を推進します。

・フォローアップ

5年ごとに本計画を見直し、実施計画を更新するため、建物の劣化、老朽化に関する点検を1年ごとに実施するとともに、法に基づく定期点検（3年ごと）の結果を有効に活用します。